

第5回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和7年1月20日（月）

午後5時30分から午後7時

会場：穂高公民館 講堂

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

- (1) 第4回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ
- (2) これまでに出された意見のまとめ
- (3) 新校の学びのイメージに係る意見交換

5 その他

次回の予定

【日時】 令和7年4月頃（予定）

【場所】 （調整中）

【内容】 学びのイメージ策定に向けた意見交換

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

令和7年1月以降

○：新規

（敬称略）

	区分	氏名（座長◎）	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J Aあづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎宮崎 樹夫	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		宮島 克夫	松本地域振興局	局長
14		斎藤 政一郎	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	岩渕 かつ子	南安曇農業高等学校P T A	P T A会長
19		小岩 未佳	穂高商業高等学校P T A	P T A会長
20		大出 敏弘	池田工業高等学校P T A	P T A会長
21		小松 公平	安曇野市P T A連合会	会長
22		宗川 尚美	大北P T A連合会	会長
23	小中学校等関係者	赤羽 文恵	安曇野市校長会（穂高東中学校長）	校長会長
24		中原 敏	北安曇校長会（美麻小中学校長）	校長会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	○密澤 健人	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		○大吉原 麗	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		北原 邦俊	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		○山口 日菜子	穂高商業高等学校	生徒会長
31		○小林 優夏	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		○深澤 穂積	池田工業高等学校	生徒会長
35		○竹内 海翔	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		武居 正憲	池田工業高等学校	校長
37		岩原 昌孝	池田工業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教諭） 川上 直子、中田 貴子、加藤 慎一郎、水谷 通章
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教諭） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教諭） 伊藤 満、犬飼 雅樹、岩原 昌孝、勝野 学

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	内山 みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	○樽沼 徹	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第4回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (案)

日時	令和6年11月19日(火) 午後5時30分から午後7時		
場所	穂高公民館 講堂		
出席 (敬称略)	中山 栄樹、宮澤 達、橋渡 勝也、山崎 晃、高橋 秀生、栗原 裕、傳刀 勇、 斉藤 岳雄、石井 克則、深澤 大輔、斎藤政一郎、笠井 明、山崎 完好、岩渕かつ子、 小岩 未佳、大出 敏弘、小松 公平、宗川 尚美、赤羽 文恵、中原 敏、山岡 勝則、 忠地 凌空、出水 和歌、北原 邦俊、今溝 秀雄、小沢 伸二、市東花衣里、三宅 浩一、 中山 蓮斗、武居 正憲、岩原 昌孝 (以上31名)		
欠席 (敬称略)	宮崎 鉄雄、宮崎 樹夫、宮島 克夫、宮澤 敏文、 川上 忠志、北澤 凌雅 (以上6名)	傍聴	27名、報道3社、オンライン3名
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、上條教諭、中田教諭、矢野教諭、山崎教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭	
	池田工業高校	山口教頭、伊藤教諭、犬飼教諭、勝野教諭	
	県教育委員会	佐野高校再編推進室長、井出主幹指導主事、高橋主任指導主事、 内山主任指導主事	
会議事項	(1) 第3回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (2) 池田工業高校同窓会からの公開質問状 (3) 公開授業の報告 (4) 新校の学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	・次第、開催要綱、構成員名簿、第3回懇話会まとめ、構成員アンケートまとめ、公開質問状への回答、学びのイメージ検討手順 ・会場配席図、アンケート用紙(両面)		

主な内容(・意見等 →生徒)

座長欠席に伴い、座長代理に橋渡安曇野市教育長を選出
○会議事項
(1) 第3回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ 第3回懇話会まとめについて事務局から説明。質問、意見なし。
(2) 池田工業高校同窓会からの公開質問状 池田工業高校同窓会からの公開質問状及び回答について事務局から説明。質問、意見なし。
(3) 公開授業の報告 ※各校職員から説明
ア 南安曇農業高校(9月30日)
・3年生の「課題研究」や「総合実習」の授業、1・2年生の普通科目を中心としたクラス別授業及び施設設備の見学を実施。各科とも課題研究の成果を卒業論文にまとめる。
イ 穂高商業高校(公開授業:10月10日、穂商フェア:10月26日)
・ケースメソッド、地域人教育HOTAKA、穂商フェアについて説明。
・穂商フェアでは再編対象の3校で共同開発した米粉どら焼き「いなほ」を販売。
ウ 池田工業高校(10月22日)
・建築学科は木材加工や測量、機械・電気学科は機械専攻の旋盤や溶接、電気情報専攻の計測など、2年生の実習を公開。実習は週3時間あり、3週間ずつローテーションを組んで実施する。2年生全体で21テーマの実習がある。
【質問】穂高商業高校の報告で取り上げた3校で共同開発した米粉どら焼き「いなほ」の販売について、詳しく教えてほしい。
→3校の再編に関連させて何かできることはないかということ課題研究のテーマにした。各校に協力を呼び掛けたところ、南安曇農業高校からは「新鮮な卵」の提供、池田工業高校からは「どら焼きの焼印」をデザインしてもらった。「いなほ」は3校の頭文字を取って命名した。再編する3校の生徒たちで協力した証を残すことができた。今後、この商品が、この懇話会と一緒に進化していけたら嬉しい。
(4) 新校の学びのイメージに係る意見交換
ア 「10年後の産業のあり方を見据えたこれからの学校像、育てたい生徒像」について産業界・地域の方々からの提言
①JAあづみ 栗原
・どら焼きの企画のように安曇野の良いところを考えて安曇野市を元気にしてくれる生徒を育てたい。
・安曇野の食や農業、地域、人との繋がりなどの魅力を高校生から発信してほしい。
・安曇野の大自然を活用しながら探究をとおして、安曇野の地域を守り、地球を守るというSDGsに繋がっていけば嬉しい。

・求める生徒像は、コミュニケーション能力や明るさ、熱意を持ち、地域に貢献できる生徒。

② J A大北 傳刀

- ・採用の際に見ている点は、積極性とコミュニケーション能力。
- ・それぞれの専門性を残すような学校づくりをしてほしい。更に、3つの学科が連携した今回のどら焼きのような活動を、ゼミを作り、その中でいろいろなことに取り組めるような時間があっても良い。
- ・好きなことを突き詰めてやることができれば幸せな人生になっていく。その方向に生徒を導いていける学校づくりをしてほしい。

③ 齊藤農園 齊藤

- ・安曇野市の農業者数は、平成27年と令和2年と比べると約20%減ってきている。農業の担い手不足が一番重要な課題。
- ・コンバインや田植え機と同じように、産業用ドローンは安曇野の農業地域では、もう当たり前になっている。また、経営に関しても、今まで個人経営でやってきたところが、法人会社経営としてやっている農家や6次産業化する農家も増えてきている。
- ・これからは総合的な農業を柱とした総合的な学びが必要であると考え。農業の中に商業的な要素、工業的な要素があり、農業を学びながら商業の勉強をしたり、工業的な部分では農機具の修理や小屋を建てる技術などを実践的に学んでいけば、全国にない特色ある高校ができるのではないかと。

④ 黒田精工 石井

- ・製造業の10年後は「労働人口の減少」「グローバル化」「女性比率の増加」「定年引き上げ」などが起こり、企業の魅力を高めなければ生き残れない。特に「将来性（開発力）」「知名度（ブランド化）」「人に優しい（生産性）」を高めていく必要がある。学校に置き換えても同じ。
- ・開発は1人でできるが、商品化するには10人の専門職が必要。また、生産性を上げるために、今まで100人でやってきたことを50人でやらなくてはならないときに、多くの技能者が必要になる。専門職が考えた工程を技能者に担ってもらわなければならない。
- ・日立やトヨタの企業内学園のように、安曇野地域で地域内学園のような形で、3校が活用できないか。我々が学校と一緒にやっていかなければならないと考えている。
- ・欲しい人材は「① 企業の収益性を高めてくれる人（開発・チャレンジ精神）」、「② ①の人材を助ける人（継続性・コミュニケーション）」。

⑤ 株式会社大王 深澤

- ・社会に出る、企業に入るということを、学校の中で学べる機会があった方がよい。
- ・一人で何でもできるわけではなく、みんなの力を合わせて会社を運営している。
- ・会社組織の中にいるという意識を持ち、技術や知識よりも、まずは人間性を大事にしている。
- ・人間性をより高められるような学校になると企業として嬉しい。

イ 意見交換

- ・1年生では農工商の基礎を学んでほしい。生徒の探究心を煽るような学校にしてもらいたい。
- ・5人のお話を聞くと、専門性を高めることもいろいろな分野を融合していく力もどちらも必要であると感じた。学校での学びに向かっていく力と企業での仕事に向かっていく力が重なり、生徒がやりたいと思うものをとことん追求することで、企業で生きる人間性に繋がる。
- ・生徒の皆さんも本音の部分でもっといろいろ思っていることがあると思う。学びのイメージをどのように共通認識するべきか、課題の整理をしっかりとしてから深めていってもよい。

○座長まとめ

次回までに、事務局でこれまでの懇話会で出された意見を整理して、それを踏まえて引き続き意見交換を進める時間としていきたい。

○3年生の生徒から退任のあいさつ

- ・農業だけでは成り立たない部分はたくさんある。3校が統合することで未来を担う人材を育てることができると思う。生徒からは生徒目線でタイムリーな意見が出るので、これからも生徒の意見を大切にしていきたい。
- ・高校生に素晴らしい答えは出せないかもしれないが、面白かったり、意外な意見が出たりすると思うので、生徒代表だけでなく、各校の生徒の意見を聴いてほしい。
- ・新しい学校になっても卒業するときに楽しかったな、自分の将来の夢のための学びができたなと思える学校を作してほしい。
- ・生徒の意見が本当に大事だと感じていて、一つ一つこぼれることなく参考にしてもらえたら、より良い学校になると思う。
- ・いろいろ課題はあると思うが、少しでも自分が携われて良かったと思っている。

その他

【次回懇話会】

- ・日時 令和7年1月頃（予定）
- ・会場（調整中）
- ・内容 新校の学びのイメージに係る意見交換

第4回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会 構成員アンケートまとめ

【新校で育てたい生徒、目指す学校像などについて】

○育てたい生徒像

- ・これからの高校に求める生徒像についてですが、私たち総合 JA としては、農業・商業・工業に精通した生徒が必要です。また、多くの組合員や地域住民との対話を重視し、職員間でのコミュニケーション力を持つ生徒を求めています。明るく、いつも元気にハキハキと挨拶できる生徒、地域を盛り上げたいという熱意を持った生徒、そして安曇野に貢献できる生徒が理想です。最後に、時間を守れる生徒も大切な要素です。
- ・求められる生徒像についてですが、地域の魅力を発信し、持続可能な社会の実現に向けて積極的に行動できる「地域の担い手」としての資質を持った生徒を育成したいと考えています。安曇野の大自然をテーマパークとして活用し、農業・工業・商業の知識を総合的に学びながら、自ら楽しみ、学ぶ姿勢を大切にしてほしいと思います。
- ・産業界からの意見について、「やる気」のある人材を切望している企業が複数ありました。
- ・高校生には挫折をしてほしい。一度叩きのめされれば困難な状況から乗り越えることができるし、精神面で言い訳をしなくなり素直で努力できる人が生まれる。
- ・社会はどんな人を求めているのか。「①自分の言葉で考えや意見が出せる人」「②なんでも興味を示せる人」「③苦しいことがあっても乗り越えられる人」「④表現力があって（学力ではない）教養があり、打たれ強い人」

○目指す学校像

- ・目指すべき学校像は、農業・商業・工業の各高校の特性を活かし、安曇野の魅力を最大限に引き出すことができる「地域に根ざした総合学習の場」であると考えます。具体的には、米粉どら焼きの取組の発表にもあったように、各校が連携し、地元の資源を活用したプロジェクトを通じて、生徒たちが地域の良さを再発見し、共有する機会を提供することが重要です。
- ・各3校の専門性は残しつつ、3校の生徒同士が共学できるような形がよいと考えます。専門的な事だけでなく、他の分野との共学は必ずプラスになるはずです。
- ・専門的分野について、時代に即した学びができ、将来にわたって学び続ける意欲や資質が育つような学校であってほしい。
- ・工業、農業、商業を学んだ子どもたちが協力して一つのプロジェクトに向かうような学びができれば、3校が一緒になる大きなメリットになると感じる。
- ・少子高齢化、多文化共生そして地球沸騰化が明らかな安曇野の未来を創る生徒を育成するために、もっと大きな集団で授業、生徒会活動、部活動をしていくことが重要です。社会に出てから様々な方々と出会っていくことを考えれば、農工商の異なる専門性を持った生徒が混ざるとは魅力的だと思います。また、部活動は中学生が学校選択する上での大きな要素です。農工商や運動の核になる運動部の設置と人材配置を考えていくことも大切だと思います。
- ・地域の企業と連携し、現在、池田工業高校が実施しているデュアルシステムのような学びや産学共同開発、共同研究など実践的な体験ができる学校であってほしいと思う。
- ・少子化が進む中、高校の再編の枠組みではなく、本来であれば農業大国長野県である以上、農を基本にした地域づくりや持続可能な社会の形成の為に、国立工業高等専門学校があるように農業高等専門学校や高等学校専攻科は本県には本当に必要だと考えています。

○学びや地域連携

- ・私たちの目指す教育は、単に知識を詰め込むのではなく、実践を通じて学び、地域を守り、地球環境を意識した持続可能な開発目標（SDGs）に繋がるような学びを提供することです。生徒たちが「食と農業と地域の魅力」を多くの人々に発信し、未来の子どもたちや孫たちに安曇野の自然をそっと渡すことができるよう、私たちが支援していきたいと考えています。安曇野の新たな魅力を創出し、地域の未来を担う人材を育成するために、皆様と共に力を合わせていきたいと思っています。
- ・3校とも「1学年時に基礎を学ぶ」ということで、1学年時に「農・工・商」を学ぶとなると大変な事だと思いますので、おのれの為の礎として学ぶ大切さを生徒たちに伝えてもらいたいと思います。そこから生徒達が自分で進みたい進路を見出せる、そんな学舎になってもらえたらと思います。
- ・高校とは過ごし方で人生が決まってしまう、それだけ高校は大切な場所である。高校での経験が財産となる。農業を基本とした学びの場、地域の課題の研究の場で農業技術と地域連携で心を育む教育を大切にする。
- ・スマート農業等を行うために、今後の AI 技術に関する研究、地域未来開発、これらの活性化を図るために高校生のアイデアを研究に結び付ける。

- ・「やる気」のある生徒の確保については、新校が魅力のある内容を考え、専門校としての選択肢を増やし、懇話会の状況を情報発信してアピールしていくことが必要と考えます。
- ・3校の公開授業に参加して、学校の環境（建物・設備等全てにおいて）の劣悪さに驚いた。この環境を早く改善する必要があると感じました。教師（教える側）と生徒（教わる側）は、少人数ということもありますが信頼関係が出来ているように感じました。
- ・黒田精工の石井専務がおっしゃった「企業と個人がつながる」、大王農場の深澤様がおっしゃった「社会を学ぶ機会を早く作る」という2点は、新校の形を構想する上で参考になると思います。農工商に係る安曇野の企業がネットワークを作り、就業体験やデュアルシステムなどの地域に開かれた教育課程やその先の学びの形を作っていくことが魅力づくりにつながると思います。

【その他のご意見、今後の進め方などについて】

○今後の進め方

- ・今後の進め方について、他の構成員の意見の中にあつたように、3校の生徒が協力して素晴らしい新校にしたいという気持ちは大切にしなければなりません。新校を学生が主導して築き上げれば、他に例のない新校が出来るものと確信できます。藤村教授の事例紹介時に生徒の前向きな発言に賛意を示したように、生徒主導型の新校が成功すれば藤村教授の事例紹介の1事例になり得ることも考えられます。
- ・毎年4月には人事異動等により構成員の数は替わります。県教育委員会で各年度の方針（具体的目標）を年度の最初の懇話会で示していただき、年度最後の懇話会でまとめる（または経過）を説明する方向で考えて欲しいと思います。
- ・各委員も現状がよく分かっていないと思いますので、現状や問題点、今後のあるべき姿を各学校でまとめて理解を深める必要性を感じております。
- ・皆様からの意見をより多く聞くには討論形式にした方が良いと考えます。お互い衝突する場面も出るかもしれませんが、その方が、進行が早くなるのではないかと考えます。
- ・事務局で想定していることを例示（どんな学校にしたいか等）して、そこから話し合った方が意見も出しやすいのではないのでしょうか。

○ご意見・ご感想

- ・産業界の方々のお話は大変示唆に富んでいて有意義だった。また、高校生の発言に未来を見据えた明るい展望をもった。懇話会がようやく前に向かって動き出したと感じた。
- ・生徒から出された「これからは農業だけでは成り立たない」、「高校生のアイデアや意見を大切にしてほしい」という意見から大人が学ぶべきことがあるのではないのでしょうか。
- ・穂高商業の生徒が考えた「いなほ」という言葉は、3校が協力していく姿が表現されていて秀逸です。余談ですが、将来の安曇野のみりを創っていく生徒を育てる高校の校名として「安曇野いなほ高等学校」「安曇野いなほ協創館高等学校」が頭に浮かびました。
- ・米粉どら焼き「いなほ」おいしく頂きました。塩オレンジでしたが、大変良く出来ている。
- ・今回のように3校合同でまた何か企画をしていただければ嬉しく思います。南農にもフードコースがあるので、色々とアイデアを出し合うのも良いと思いました。

上伊那総合技術新校（仮称）再編実施基本計画（案）

1 再編統合対象校

辰野高等学校の商業科、箕輪進修高等学校の工業科、上伊那農業高等学校、駒ヶ根工業高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 17 年度以降 ※募集開始年度の表記については変更となる可能性がある。

学校規模の縮小化が避けられない状況の中、上伊那地区 4 校にわたる統合となり、総合技術高校として、施設の整備期間等を考慮し、新校の募集開始年度を令和 17 年度以降とする。

3 活用する校地・校舎

上伊那農業高等学校

新校で構想する学びの実現、学校規模、生徒の諸活動を支える施設・設備と校地の広さを考慮し、上伊那農業高等学校を新校の校地として活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科 3 学科あわせて 5～6 学級程度

農業科、工業科、商業科を設置する総合技術高校として、専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた 3 科の連携した学びが実現できる教育課程を編成する。

上伊那地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 5～6 学級程度が想定される。

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5 統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

「専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた 3 科の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる高校」を構想する。

6 統合新校の施設整備について

- ・使用可能な既存施設は有効に活用することを前提とし、再編統合による生徒数の増加や学科の改編等に対応するために必要な施設整備を行う。施設整備にあたっては、新たな学びや現在の生活スタイルに対応するよう配慮する。
- ・施設整備に係る概ねの期間 8～10 年程度を想定

自己を磨き、未来をデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

- 専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身の未来をデザインできるひと
- 上伊那で学び、地域・社会を元気にできるひと
- 多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと
- 幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして、社会に貢献できるひと

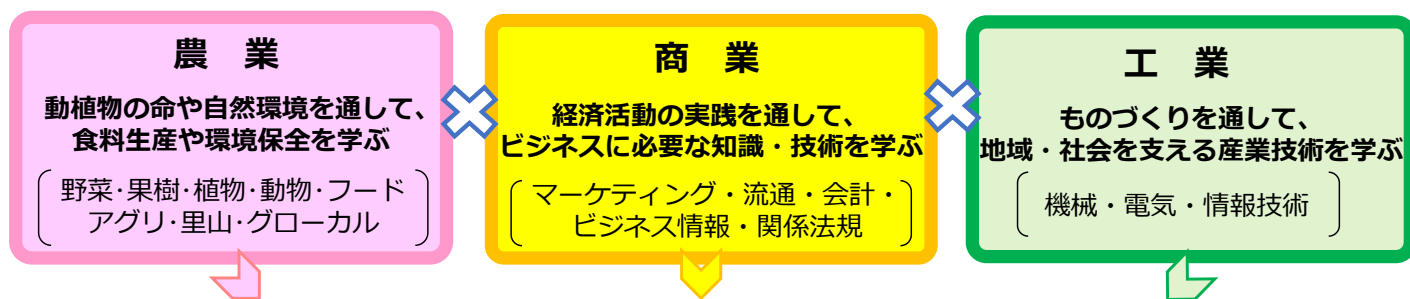
目指す学校像

- 専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
- 上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校
- 多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング*」を実現できる学校
- 生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会の未来を創造できる学校

*身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那の未来



- 専門性を高め、多様な選択科目から、個々に応じた探究的な学びができるしくみ
- 6次産業について高校生が考える農工商の融合した学び

学びの連携プラットフォーム

ミックスホームルーム
3科編組したクラス編成

新たな単位認定
学校外学習の単位認定
学校間連携による単位認定等

3科協働を支える施設
プレゼンルーム クリエイティブラボ（協働実習室）
ウェルビーイングルーム（魅力発信研究室）等

○学科の枠を超えた学び

- ・学科の枠を超えた学びの実践により「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等、調和のとれた、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する
- ・学科の枠を超えた学びを通して人間性を高め、自ら未来をデザインできる力を育てる
- ・共通した学びによりDX時代に対応できる力を育てる
(AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等)

○未来の産業界のつくり手の育成

- ・様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む
- ・地域連携を通じて上伊那地域全域を舞台に、探究し、発信できる力を育む
- ・上伊那総合技術新校での学びを最大限に活かした資格・検定へ挑戦する力を育む

地域連携協働室を創設し、地域連携コーディネーターを配置

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、イノベーションの創出に貢献できる生徒を上伊那地域全域で育てるシステム

市町村

上伊那広域連合

信州大学

南信工科短期大学校

青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)

各種学校(幼保小中高大特支)

産業界

※伊那養護学校中の原分教室については引き続きキャンパス内に教室を設ける

第5回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

学びのイメージ 検討手順

学びのイメージ
完成

新しい学校の形

- ・設置課程、学科
- ・活用する校地、校舎
- ・想定する募集学級数
- ・卒業後の進路保障 など

新しい学校の中身

- ・特色あるカリキュラム
- ・学びの融合
- ・魅力づくり など

目指す学校像
育てたい生徒像

- ・教育方針、学びの柱（第4回～）
どのような学校にしたいか
どんなことを学んでみたいか

- ・懇話会の趣旨説明（第1回）
- ・全国の先行事例の講演（第2回）
- ・3校の学校・学びの紹介（第3回）

共通理解



これまでに出了された意見のまとめ

	育てたい生徒像	目指す学校像	学び・地域連携
旧第11通学区高等学校教育懇話会 意見・要望書(R3.12月) (総合技術高校に関する記述を抜粋)	・即戦力となる専門性の高い人材 ・地元の中企業のビジネスパートナーが世界に広がる中でリベラルアーツ（幅広い教養）が大切 ・6次産業に対応した専門分野の枠を越えた汎用的・多面的な職業能力の育成	・高校入学後に学びながら学科を決めていけるような柔軟なシステムも魅力的	・地域人材や地域資源を最大限活用できる環境を整備 ・コンソーシアムや協議会を設けることで横のつながりを強化 ・コミュニティ・スクールの導入 ・コーディネーターや外部人材の登用 ・学科が連携して行う地域協働学習
大北地域における高等学校の将来を考える協議会 意見・提案書(R3.12月) (総合技術高校に関する記述を抜粋)	・多くのさまざまな考えに触れて、実体験・実経験の中から、多面的に物事を捉えられる力、新たな価値を創造する力 ・将来地域を担う人材	・地域が一体となった学校づくりや社会に開かれた教育課程	・生徒、教職員、保護者、同窓会、教育機関、企業・団体などが協働した学び合い ・地域に根差した学び
再編・整備計画【三次】(R5.1月)	・DX等に対応するデジタル系の学びを共通の核として、Society5.0に必要なイノベーションを起こすことができる産業人の育成	・学科の基礎的な専門性を身に付けるとともに、学科を横断した科目を学ぶことなどにより、これからの時代に必要な汎用的・多面的職業能力を育成 ・「総合選択制（他学科の科目を選択したり、他学科に転科することが可能なシステム）」を導入	・地元自治体や地域の企業等との共学共創プラットフォームを構築し、再編対象校が培ってきたノウハウや各地域の資源を最大限活用した探究活動や課題研究を実践の活用
第1回懇話会 (R6.1月) 趣旨説明	・農工商を学ぶことで予測できない未来に対応できる人材	・学科同士の交流 ・県立高専の設置 ・高等学校専攻科の設置	・GX(グリーン・トランスフォーメーション)、SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)という言葉の意味からも今後農業・工業・商業の全ての学びが必要になる
第2回懇話会 (R6.5月) 全国の先行事例の講演 グループディスカッション	講演会 要旨		
	・「問い」を立てる力 ・主体的に行動する力や新たな価値を創造する力 ・情報スキルや創造力、批判的思考力	・Society 5.0やAIの発展に対応する人材育成 ・予測困難な「VUCAワールド」に対応するための教育 ・人口減少と生産年齢人口の減少に対応するため、労働生産性を向上させる教育 ・自律的に問題を発見・解決する力を育成する教育	・学びの環境を整えることが重要で、黒板をなくし、タブレットや電子黒板を活用する教室設計 ・机を前向きに配置しない、グループや個人での自由な学び
第3回懇話会 (R6.7月) 3校の学校・学びの紹介	グループディスカッションやアンケートでの意見		
	・産業界は元気があり問題解決ができる生徒を求めている ・高校生が新たな地域の活性化につながると良い ・指示待ちではなく何でも自分から吸収しようとする意欲がある人間	・生徒の自由な発想や考えを大切にした学校づくり ・自分から学びに行ける学校 ・地域の産業や商品作りを通じた農工商3科を学べる学校 ・地域で働きたい子どもたちの期待に応える学校 ・探究に全力を注ぐ学校、ものづくりを中心とした新しい学校 ・農業×工業も必要、幅広い学びのための総合技術高校 ・総合技術高校は専門分野だけでなく、他分野の知識を持った産業人を育てる学校とされているが、3年間で多くの知識を習得した人材を育成することは難しい	・6次産業は興味深く、農工商が同時に学べる環境は将来のためにも良い ・普通高校にはない、未来を見通せる環境 ・生徒が夢になれる学び ・3つの学校を1つにするだけでなく、新しい発想で考える ・これまで長い時間を掛けて築きあげられてきた高校専門教育も大切に
第4回懇話会 (R6.11月) 公開授業視察・報告 地域・産業界からの提言①	・未来に必要な人材 ・何歳になっても好奇心を持ちコミュニケーション能力の高い生徒	・生徒自身が自ら学んでみたいことにチャレンジできる学校 ・各校のしごらみにとらわれないこと、生徒が大いに成長すべき高校 ・生徒自ら学びたいと思える活気のある総合的な学校 ・長野県農業を担う人材育成の場が高校の段階から必要 ・検定を多く取れる学校 ・社会人とはどういふものか、姿勢、行動等の教養にも力を入れた学校 ・楽しく実のある学びができる学校	・学科・学年関係なくゼミに所属したゼミ活動 ・農業・工業・商業の魅力を、地元高校生が発見し6次産業につなげる ・安曇野の大自然を農のテーマパークとして活用し、農工商を総合的に学ぶことで安曇野や地域を守り、地球を救う持続可能な開発目標（SDGs）につなげる ・高等学校段階で地域を知り、愛着を持つ機会を創出する ・専門性は会社で引き続き教育するので基礎を教え込んでほしい
	地域・産業界からの提言①		
第4回懇話会 (R6.11月) 公開授業視察・報告 地域・産業界からの提言①	・安曇野の良い所を考えて安曇野市を元気にしてくれる生徒 ・コミュニケーション能力や明るさ、熱意を持ち、地域に貢献できる生徒 ・企業の収益性を高めてくれる人（開発・チャレンジ精神）とその人を助ける人（継続性・コミュニケーション）	・それぞれの専門性を残し、好きなことを突き詰めてやることができる学校 ・人間性をより高められるような学校 ・農業・商業・工業の各高校の特性を活かし、安曇野の魅力を最大限に引き出すことができる「地域に根ざした総合学習の場」となる学校	・知識を詰め込むのではなく、実践を通じて学び、安曇野の大自然を活用しながら探究をとおして、安曇野の地域を守り、地球を守るといふSDGsにつなげる ・総合的な農業を柱とした総合的な学び ・企業内学園のような地域内学園として生徒を支援する ・社会に出る、企業に入るといふことを学ぶ機会を作る ・安曇野の新たな魅力を創出し、地域の未来を担う人材を育成するために、学校と共に力を合わせていきたい
	懇話会およびアンケートで出された意見		
第4回懇話会 (R6.11月) 公開授業視察・報告 地域・産業界からの提言①	・農業・工業・商業に精通した生徒 ・時間を守る生徒 ・地域の魅力を発信し、持続可能な社会の実現に向けて積極的に行動できる「地域の担い手」としての資質を持った生徒 ・「自分の言葉で考えや意見が出せる人」「なんでも興味を示せる人」「苦しいことがあっても乗り越えられる人」「表現力があって（学力ではない）教養があり、打たれ強い人」	・生徒の探究心を煽っていけるような学校 ・専門分野について、時代に即した学びができ、将来にわたって学び続ける意欲や資質が育つような学校 ・少子高齢化、多文化共生そして地球沸騰化が明らか安曇野の未来を創る生徒を育成するために、もっと大きな集団で授業、生徒会活動、部活動をしていくことが重要 ・農工商や運動の核になる運動部の設置と人材配置を考えていくことも大切 ・農業高等専門学校や高等学校専攻科は本県には必要 ・デュアルシステムのような学びや産学共同開発、共同研究など実践的な体験ができる学校	・専門性を高めることもいろいろな分野を融合していく力もどちらも必要 ・農業、工業、商業を学んだ子どもたちが協力して一つのプロジェクトに向かうような学び ・農業を基本とした学びの場、地域の課題の研究の場で農業技術と地域連携で心を育む教育 ・「企業と個人がつながる」「社会を学ぶ機会を早く作る」 ・農工商に係る安曇野の企業がネットワークを作り、就業体験やデュアルシステムなどの地域に開かれた教育課程やその先の学びの形を作っていくことが魅力づくりにつながる